

謝 辞

旅立ちの春を迎え、日増しに暖かさを感じる季節となりました。

本日は、私たちのためにこのような盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。御臨席をいただきましたご来賓の皆様、片桐学長先生を始め諸先生方、並びに関係の皆様が卒業生を代表して心から御礼申し上げます。旅立ちの節目となる今、卒業生一同、楽しかった思い出だけでなく、辛かったこと、努力したことを思い起こし、未来への希望に胸弾ませています。

この2年間を振り返ってみますと、授業や実習、ゼミ活動を通して介護福祉士への憧れが強くなりました。介護福祉士は利用者の一番近くで寄り添いながら、その人の人生をその人らしくサポートできる魅力的な職業と改めて感じています。

学びの中で特に印象強く残っていることは、80代の仲睦まじいご夫婦と触れ合った時のことです。奥様は認知症が重度で、その奥様を支えているのは83歳の夫でした。お二人とも80歳まで健康で何不自由なく楽しく暮らしていましたが、ある日当然、奥様が、夫の顔も分からなくなり不潔行為を繰り返すようになりました。夫は不潔行為をされるたびに険しい顔つきになり、イライラして怒鳴り、何度も逃げ出そうと思ったそうですが、「妻は不潔行為をしたくてしている訳ではない、どうしていいのかわからなくなっているんだ」と思うようになり、そう思えるようになった時、笑顔で優しい言葉を掛けられるようになったそうです。夫の気づきと優しさで、徐々に認知症の妻は不潔行為をすることがなくなり、穏やかな生活が送れるようになったとお聞きしました。そして、家族介護者の夫自身が認知症の妻の笑顔に支えられていると言われました。今も仲睦まじくお二人暮らしをされています。今では介護することが楽しくなって、「一生この人を自宅で支えたい、一緒にずっと暮らしたい」というお言葉をお聞きしたとき、何と素晴らしいご夫婦なんだろう、と寄り添い、支え合うことの大切さと介護の奥深さを改めて実感しました。と同時に、介護を必要としている方はもちろん、その人を支える家族、介護で悩んでいる周りの人を支えられる介護福祉士になりたいという思いを強くしました。そして自分の目指す介護福祉士像が明確になりました。

この2年間を有意義に過ごすことができたのは、常にサポートをしてくださった学科の先生方や様々な場面で共に学び合い支え合ってきた仲間たちのお陰です。そして一度は社会人として働いていた私に学び直す機会を与えてもらい、私の夢を温かく見守ってくれている家族のお陰です。心から感謝申し上げます。この感謝の気持ちを胸に私たちはそれぞれの場所で夢を叶えたいと思います。

最後に、本学で学ぶことができました御礼と私たちの卒業を記念して、大学卒業生一同と共に、関キャンパスにクリスタルホール用テーブル・椅子を贈呈致します。

中部学院大学短期大学部の一層のご発展をお祈りしまして、謝辞とさせていただきます。2年間、本当にありがとうございました。

2023年3月18日

卒業生代表

中部学院大学短期大学部社会福祉学科

渡邊 恭嗣